

第4編 成果と課題

【目次】

第1章	沼田市教育行政方針評価（学校教育）	137
第2章	第12次教育水準向上研究＜第2年次＞の成果と課題	142
	令和3年度の研究指定等	143
編集後記		143

第1章 令和3年度沼田市教育行政方針評価（学校教育）

【評価について】	
1 評価者（全120名）	○各小中学校6名（校長・教頭・教務主任・研修主任・職員代表2名） ○各幼稚園3名（園長・職員代表2名）
2 評価項目	○全44項目（沼田市教育行政方針「重点施策1」について）
3 評価方法	○自校・園の取組について「実現度」による評価 （4：できている 3：おおむねできている 2：あまりできていない 1：できていない）
4 評価平均について、太字は3.4以上、網掛けは3.0未満	

1. 「重点施策1」について

(1) 学校(幼稚園)経営の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	校長(園長)のリーダーシップによる経営方針の明確化と各主任を中心とした全校的な組織体制の確立	3.70	69.8%	30.2%	0%	0%
イ	子どもを守り育てる実効的な危機管理体制の充実(「セーフティ沼田」※)	3.60	60.3%	39.7%	0%	0%
ウ	ガイドラインを踏まえた働き方改革に向けた教職員の意識の高揚と具体的な取組の推進	3.17	27.8%	61.9%	10.3%	0%
エ	学びの連続性を踏まえた幼小中連携の充実(幼小中連携※)	3.22	27.8%	66.7%	5.5%	0%
オ	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進とカリキュラムマネジメントの充実	3.42	41.6%	58.4%	0%	0%
カ	自校園の喫緊の教育課題解決に向けた校内(園内)研修の計画的な実施	3.63	63.5%	35.7%	0.8%	0%
キ	信頼される学校づくりのための教職員の資質向上と服務規律の確保	3.64	64.3%	35.7%	0%	0%
考察	7項目中5項目の評価平均が3.4以上であり、さらに、6項目で昨年度から平均値が上昇している。各学校園の校長・園長がリーダーシップを発揮して明確な経営方針を具体的に示し、各主任が中心となった組織的な取組が見られた。感染症対策を講じながら、充実した教育活動を進めようと各学校園で工夫した取組が見られた。「オ」「カ」については、「4」の割合、平均値、ともに昨年度より大きく上昇した。ICT活用を進める中で、教師相互の授業参観や研修の機会が増え、授業改善につながっていると考えられる。また、「ウ」の働き方改革については、年々数値が上昇しており、引き続き具体的な取組を進めていくことが大切である。					

(2) 家庭や地域社会、関係機関等との連携・協働

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	家庭や地域社会と連携・協働した教育課程の編成・実施・評価(「社会に開かれた教育課程」の実現)	3.40	39.7%	60.3%	0%	0%
イ	各種教育活動における地域の人的・物的資源の積極的活用	3.22	28.6%	65.1%	6.3%	0%
ウ	不登校や問題行動、貧困問題などの生徒指導や特別支援教育等において、専門性をもった関係機関との連携や組織的・協働的な課題の解決	3.43	44.4%	54.0%	1.6%	0%

考察	<p>「ア」「イ」について、感染症対策を講じながら、できる範囲での活用を積極的に進めている学校が多く、昨年度よりも評価平均が上昇し、「2」の評価が減少した。コロナ禍にあってもオンラインで外部人材による講話や読み聞かせなどの活用事例もあった。引き続き充実させていきたい項目である。「ウ」については、SC、SSW、自立支援アドバイザーなどから専門的な助言を得るなど、各学校園ともに積極的に連携していることがうかがわれる。引き続き、課題解決に向けた組織的な対応を進めていくことが大切である。</p>
----	--

(3) 社会の変化に対応する教育の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	学ぶことと社会との接続を意識したキャリア教育の充実(キャリア・パスポートの活用)	3.20	27.8%	64.3%	7.9%	0%
イ	郷土の豊かな自然、先人たちが築いた歴史や文化に触れ、郷土愛をはぐくみながら地域を誇りに思う教育の推進(「沼田大好き」ふるさと学習の推進※)	3.19	25.4%	68.3%	6.3%	0%
ウ	新たな英語教育の在り方を踏まえ、小学校から中学校への学びの連続性を意識した、外国語活動及び英語科授業の推進(英語教育の早期化・教科化・高度化への対応)	3.42	44.2%	53.3%	2.5%	0%
エ	環境教育の視点を踏まえた体験的活動の実施と各教科等における指導の継続	3.17	23.0%	70.6%	6.4%	0%
考察	<p>全項目において昨年度より平均値が上昇した。「イ」に関しては、コロナ禍にあっても各校園の実情に応じて工夫した取組が進められた。「エ」の環境教育については、平均値が大きく上昇するとともに、「2」の回答が大幅に減少した。SDGsの観点からの学習についての自由記述も多く、中学校においては、総合的な学習の時間においてSDGsの視点を入れた取組も見られている。「ア」「イ」「エ」については、他の項目と比較すると「2」の割合がやや多いため、引き続き各学校園において、実情に即した取組が望まれる。</p>					

(4) 確かな学力の育成

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	各教科等において育成を目指す資質・能力を明確にして、内容や時間のまとまりを見通した単元や題材の構想	3.42	41.7%	58.3%	0%	0%
イ	児童生徒にめあてと見通しをもたせたり、学びを振り返って次に必要な授業づくりを意識するとともに、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学習活動の充実	3.50	50.0%	50.0%	0%	0%
ウ	学習の基盤となる「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」などの育成を図るための学習活動の充実	3.26	25.8%	74.2%	0%	0%
エ	1人1台学習者用コンピュータを効果的に活用した学習活動の工夫	3.45	47.5%	50.0%	2.5%	0%
オ	学力検査等の分析や日常的確かな実態把握の基、各教科における個に応じたきめ細かな指導の充実	3.31	32.5%	65.8%	1.7%	0%
カ	家庭学習の習慣化を図るための指導の工夫と保護者との連携	3.23	28.3%	66.7%	5.0%	0%
考察	<p>全体的に評価が高く、学力向上に向けて充実した取組が実践された。校内研修や学力向上対策の中で、研修主任や学力向上コーディネーターを中心として、組織的・計画的な取組が進められている。単元や題材の構想、めあてと見通し、学びの振り返りについてしっかりと意識した授業づくりが行われている。また、今年度は1人1台学習者用コンピュータの活用が図られ、各学校において研修が充実した。今後は、より効果的な活用の仕方について研修を進めていくことが望まれる。また、ドリルパークを用いた基礎的な事項の習得や家庭学習での活用も見られており、今後も積極的な活用が望まれる。一方、教員用端末の整備や特別教室の環境整備の拡充、Wifi環境のない家庭への対応などの課題については、対策の検討が必要である。</p>					

(5)豊かな心の育成

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために道徳科の授業を要とした教育活動全体を通して行う道徳教育の推進	3.41	42.1%	57.1%	0.8%	0%
イ	「考え・議論する」道徳科への質的転換に向けた指導の工夫	3.23	27.5%	68.3%	4.2%	0%
ウ	「沼田市人権教育推進方針」に基づく教育活動全体を通じた組織的な人権教育の推進	3.37	38.1%	60.3%	1.6%	0%
エ	体験的な学習活動やボランティア活動を通して、互いに協力し合おうとする態度の育成を目指した福祉教育の推進	3.22	26.2%	69.8%	4.0%	0%
オ	「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を意識した特別活動の充実	3.11	14.2%	82.5%	3.3%	0%
カ	生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実(「SOSの出し方に関する教育」プログラムの活用)(「児童生徒の命を守り、育てる教育」※)	3.33	34.9%	63.5%	1.6%	0%
キ	いじめを許さない心を育てるための児童生徒主体のいじめ防止活動の充実	3.63	62.5%	37.5%	0%	0%
考察	<p>「カ」の「SOSの出し方に関する教育」については、スクールカウンセラーと連携した授業実践を行った学校があったが、更なる充実が望まれる。「キ」については引き続き高い評価平均であり、「4」の割合も昨年度より大きく上回った。小学校では企画委員会による集会活動やクラスごとの取組の紹介、中学校では、生徒会本部や各委員会によるいじめ防止の観点からの具体的な実践など、各学校において積極的な取組が見られた。また、SNSに関連したいじめについてもテーマとして扱い、生徒が主体となってSNSルールを見直す学校もあった。今年度も感染症対策のため体験活動が制限されたが、各学校園においては、コロナ禍でもできる活動を工夫し、児童生徒の豊かな心の育成に向けた取組が推進された。</p>					

(6)健やかな体の育成

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	子どもの心身の健康の保持増進を図るための健康教育の計画的な推進と充実、及び感染症対策の徹底	3.60	60.3%	38.9%	0.8%	0%
イ	栄養教諭等を活用した食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける食育の充実	2.85	14.3%	56.3%	29.4%	0%
ウ	「体力向上プラン」を踏まえ、教科体育を核とした運動やスポーツに対する関心や意欲の向上を図る取組の推進	3.42	44.4%	53.2%	2.4%	0%
エ	中学校における部活動の適切な指導の実施と効果的な休養日の設定(教育部活※)	3.77	76.8%	23.2%	0%	0%
オ	子どもの危険予測と危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進	3.35	37.3%	60.3%	2.4%	0%
考察	<p>「ア」の感染症対策については、教職員の共通理解の下、徹底した取組がなされた。児童生徒の主体的な行動を促す指導や家庭との連携も図られた。「イ」については、栄養教諭の活用が難しく今年度も評価は低かったが、食に関する指導を養護教諭と連携して行った学校もあった。また、幼稚園では、栄養教諭を講師として保護者への啓発を行った事例もあった。引き続き、食育の充実について取組を進めていく必要がある。「ウ」については評価平均が上昇した。コロナ禍での活動の制限もあったが、朝行事での体幹トレーニングや持久走、運動する場の工夫など、各学校園において様々な工夫が見られた。また、1人1台学習者用コンピュータを積極的に活用し、体育科の授業改善を進めた学校もある。</p>					

(7) 生徒指導の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	日々の授業や行事など学校生活全体における、生徒指導の3つの機能(自己存在感・共感的な人間関係・自己決定)を生かした指導・支援	3.47	47.6%	51.6%	0.8%	0%
イ	いじめ防止基本方針を踏まえた未然防止・早期発見・適切な対応・認知と解消の徹底	3.62	62.7%	36.5%	0.8%	0%
ウ	不登校の未然防止や不登校傾向児童生徒への初期対応の徹底と教育相談活動の充実	3.47	47.6%	51.6%	0.8%	0%
エ	インターネットの利用にかかわるトラブルを防ぐ情報モラル教育の充実と家庭への啓発活動の推進(「沼田市SNSルール」※)	3.39	41.3%	56.3%	2.4%	0%
考察	<p>昨年度に引き続き、全項目で高い評価が得られた。管理職や生徒指導主事・主任を中心とし、情報共有や組織的な対応、意図的・継続的な取組などが見られた。必要に応じたケース会議や定期的な生徒指導委員会、C4t h等を活用した情報共有など、様々な工夫がなされている。また、児童生徒へのアンケートとそれに伴う教育相談(チャンス相談や見守り等)など、きめ細かな対応が行われている。また、「エ」については、課題も挙げられているが、生徒主体のSNSルールの見直しや継続した家庭への啓発が行われている。さらに、情報モラル講習会やタブレット講習会、沼田警察署スクールサポーターによる非行防止教室などの取組も見られた。</p>					

(8) 特別支援教育の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内特別支援体制の強化と交流及び共同学習の推進	3.45	46.0%	53.2%	0.8%	0%
イ	個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づいた中・長期的な支援の充実	3.40	40.5%	59.5%	0%	0%
ウ	通常学級における気になる子どもに対する指導の工夫と適切な対応	3.34	36.7%	60.8%	2.5%	0%
考察	<p>昨年度に引き続き、高い評価であった。特別支援教育コーディネーターが中心となり、校内教育支援委員会の計画的な実施や必要に応じたケース会議により、適切な支援を探ることができている。専門アドバイザーや専門相談員等、関係機関との連携も図られ、特別支援教育が推進されている。幼稚園においても、個別の支援を明確にした取組や、コンサルテーションなどを通してよりよい指導について助言を受ける取組などが見られた。一方、特別な支援が必要な子どもが多く見られることから、障害への理解や指導力の向上、支援体制の工夫などが必要となっている。</p>					

(9) 読書活動の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	学校や家庭における読書習慣づくりの推進及び読書活動の充実(「家族で本を読みましょ」※)	3.18	26.2%	65.9%	7.9%	0%
イ	図書資料を利活用した学習活動を充実させるための学校図書館の環境整備と沼田市立図書館との連携	3.08	21.4%	65.1%	13.5%	0%

考察	<p>各学校においては、図書委員会の活動と関連付けた家庭への啓発、図書だよりの発行、読書ノーマディアデーなど、引き続き工夫した取組を進めている。移動図書館の利用、市立図書館の団体貸出の利用によって効果を上げている学校も見られた。また、朝読書により、継続して読書の時間を確保し、読書習慣をつける取組も多く見られた。幼稚園では、親子読み聞かせやお膝絵本の日を設定したり、おすすめ絵本のコーナーやおすすめ絵本の掲示など環境を工夫したりして、保護者の本への意識を高める取組が行われている。</p>
----	--

(10)教育研究所の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	第12次沼田市教育水準向上研究の具現化を目指した教師の資質向上に資するための実践的な班別研究の推進	3.27	27.5%	71.7%	0.8%	0%
イ	不登校や学校不適應等の課題を抱える子どもやその保護者に対する教育相談の推進と関係機関との連携	3.59	59.2%	40.9%	0%	0%
ウ	「適応指導教室(きずな)」・「ことばの教室」における各校園との連携を生かした組織的かつ継続的な支援体制の確立	3.50	50.0%	50.0%	0%	0%
考察	<p>全項目において評価平均が高く、昨年度からも上昇した。特に「イ」「ウ」については、学校・家庭との積極的な情報共有を基盤にした継続的な連携により、不登校児童に改善が見られるなど大きな成果を上げている。自立支援アドバイザーの活用も効果的であり、学校での指導にも生かすことができている。また、ことばの教室と言語通級指導教室との連携も図られた。「ア」の班別研究では、ICT活用について、授業実践を通してそのよさや有効性について検証し、各学校の実践に役立っている。今後は、研究成果を各学校に広げていくことが必要である。</p>					

(参考)評価平均の推移

教育行政方針(評価の観点)	年次毎の評価平均			
	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次
基本方針1(教育水準の向上を目指す学校教育の充実)				
一人一人のよさを大切にし、社会の変化に主体的に関わり、未来社会を切り拓く力を身に付けた子どもを育てるために、「第12次沼田市教育水準向上研究」を中心に、家庭・地域社会との連携を図りつつ、全市をあげて教育実践に努めます。	3.32	3.38		

第2章 第12次沼田市教育水準向上研究（第2年次）の成果と課題

1 評価結果

領域	No.	学校教育の重点	評価平均	評価の割合			
				4	3	2	1
確かな学力	ア	各教科等において育成を目指す資質・能力を明確にして、内容や時間のまとまりを見通した単元や題材の構想	3.42	41.7%	58.3%	0%	0%
	イ	児童生徒にめあてと見通しをもたせたり、学びを振り返って次につなげたりする授業づくりを意識するとともに、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学習活動の充実	3.50	50.0%	50.0%	0%	0%
	ウ	学習の基盤となる「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」などの育成を図るための学習活動の充実	3.26	25.8%	74.2%	0%	0%
豊かな心	エ	「考え・議論する」道徳科への質的転換に向けた指導の工夫	3.23	27.5%	68.3%	4.2%	0%
	オ	「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を意識した特別活動の充実	3.11	14.2%	82.5%	3.3%	0%
	カ	いじめを許さない心を育てるための児童生徒主体のいじめ防止活動の充実	3.63	62.5%	37.5%	0%	0%
健康な体	キ	子どもの心身の健康の保持増進を図るための健康教育の計画的な推進と充実、及び感染症対策の徹底	3.60	60.3%	38.9%	0.8%	0%
	ク	「体力向上プラン」を踏まえ、教科体育を核とした運動やスポーツに対する関心や意欲の向上を図る取組の推進	3.42	44.4%	53.2%	2.4%	0%
	ケ	子どもの危険予測と危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進	3.35	37.3%	60.3%	2.4%	0%

2 結果の考察

(1) 確かな学力

全体的に評価が高く、学力向上に向けて充実した取組が実践された。校内研修や学力向上対策の中で、研修主任や学力向上コーディネーターを中心として、組織的・計画的な取組が進められている。単元や題材の構想、めあてと見通し、学びの振り返りについて、しっかりと意識した授業づくりが行われている。また、今年度は1人1台学習者用コンピュータの活用が図られ、各学校において研修が充実した。今後は、より効果的な活用の仕方について研修を進めていくことが望まれる。「ウ」については、昨年度より評価は上昇したが、「4」の割合が低い。各教科においてどのような力を身に付けていくとよいかをより意識し、学習活動を工夫していくことが必要である。

(2) 豊かな心

「カ」については引き続き高い評価平均であり、「4」の割合も昨年度より大きく上回った。小学校では企画委員会による集会活動やクラスごとの取組の紹介、中学校では、生徒会本部や各委員会によるいじめ防止の観点からの具体的な実践など、各学校において積極的な取組が見られた。今年度も感染症対策のため体験活動が制限されたが、各学校園においては、コロナ禍でもできる活動を工夫し、児童生徒の豊かな心の育成に向けた取組が推進された。今後は、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」といった特別活動の視点をより意識していくことが望まれる。

(3) 健康な体

全体的に評価が高く、各主任が中心となり組織的な取組が進められている。特に「キ」の感染症対策については、どの学校園においても徹底した取組がなされた。教職員の共通理解だけでなく、児童生徒の主体的な行動を促す指導や家庭との連携も図られた。「ク」については評価平均が上昇した。コロナ禍での活動の制限もあったが、その中でも、朝行事での体幹トレーニングや持久走、運動する場の工夫など、各学校園において様々な工夫が見られた。また、体育の授業における1人1台学習者用コンピュータを積極的に活用し、体育科の授業改善を進めた学校もある。

令和3年度の研究指定等

指定・委託元及び年度	事業名	学校名等
令和3～4年度 群馬県教育委員会	「チーム学校」に関わる事務職員特配	沼田東小学校
令和2～3年度 群馬県教育委員会	ぐんまの子どもの体力向上推進事業	薄根小学校
令和2～3年度 群馬県教育委員会	群馬県青少年赤十字実践推進校	利根小学校
令和3年度 群馬県教育委員会	I C T活用促進プロジェクト実践推進校	沼田中学校
令和3年度 群馬県教育委員会	オリンピック・パラリンピック教育推進事業	沼田南中学校

編集後記

本年度も、多くの皆様に御協力いただき、本研究紀要を完成させることができました。

各研究部会の取組、小中学校・幼稚園の校内（園内）研修や教育水準向上授業研究会等の成果について改めて拝見すると、コロナ禍にあっても、先生方が日々研鑽に励み、子どもたちのために力を注がれている様子がよく伝わってまいります。本年度は第12次沼田市教育水準向上研究の2年次でしたが、本研究の主題である「社会の変化に主体的に関わり、未来社会を切り拓く力を身に付けた子どもの育成」に向けて、沼田市の先生方で学校教育の重点を共有し、一丸となって取り組むことができました。各学校園での取組には多くの工夫が見られ、子どもたちと真摯に向き合った日々の実践が成果として表れています。

また、上記のように本年度も研究指定等の事業が行われ、目指す子どもの育成に向けて、学校全体で様々な取組が実践されました。また、今年度から本格的に運用が開始された1人1台学習者用コンピュータなどのI C T活用についても、各校で工夫した取組が進められました。授業を参観させていただくと、勉強や運動に前向きに取り組む、よりよく問題を解決しようとする子どもたちの姿がありました。これはひとえに、学びを支える先生方の御尽力の賜物だと感じております。これからも激動の世の中の未来を見据え、沼田の子どもたちに生きる力を身に付け、伸ばしていただきますようお願いいたします。

結びに、研究の主体となって熱心に取り組まれた各幼稚園・小中学校の皆様、研究計画の作成・評価に貴重な御意見をくださった研究推進委員会の方々、御指導・御協力いただきました利根教育事務所をはじめとする関係各方面の方々にこの場をお借りして深く感謝申し上げ、編集のまとめといたします。

令和4年3月 吉日
沼田市教育委員会
指導主事 富澤 誠司

*本冊子は、沼田市 Web ページに公開しています。URL (<https://www.city.numata.gunma.jp/>)